

すかい

地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2024
令和6年

1-20
No.617

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

景況調査レポート



須坂市 臥竜公園

天にも昇る勢いや能力を秘め、伏してうずくまる竜をさす「臥竜」。転じてまだ世に知られていない、優れた人物をさす言葉です。臥竜山一帯が公園整備されたのは昭和初期。公園設計者は明治神宮や日比谷公園を設計した有名な林学博士、本多清六(ほんだせいろく)東大教授です。「さくら名所100選」や「日本の名松100選」にも選定され、四季を通じて市民に人気の臥竜公園。家族連れで賑わう売店前の水栓には、竜の飾りがついています。2024年が良い年となりますよう、めでたい土雛とのコラボとまいりましょう。

アンケート特集

- 長野しんきん 景況調査レポート 2
- 北信濃 明治時代の風景 (22) 善光寺西方 10

- 2024年の経営見通し① 5
- 2024年の暮らし向き 生活者 8

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



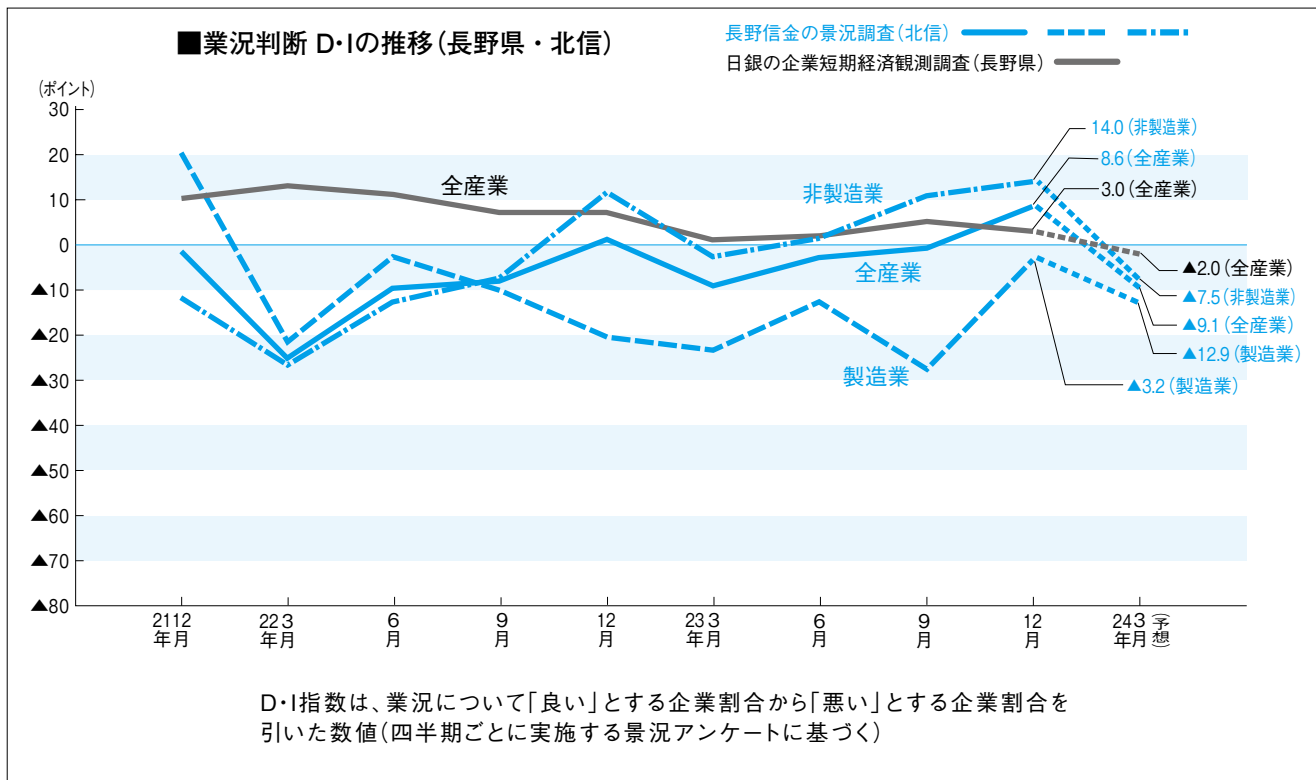
これからも、ずっといっしょに、このまちで

 長野信用金庫



景況調査レポート 概況 (第194回景況アンケート調査)

◆長野県北信地区◆2023年10～12月期…景気の現状◇2024年1～3月期…景気の見通し



全産業▲1 → +9 製造業、非製造業ともに改善

2023年10～12月期の業況判断D-Iは、全産業で10ポイント改善して+9となりました。製造業は25ポイント改善の▲3、非製造業は3ポイント改善の+14です。

2024年1～3月期の全産業の業況判断D-I(予想)は、18ポイント悪化の▲9となりました。

◆北信地区の10月～12月期の業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲1	+9 (10ポイント改善)	▲9
製造業	▲28	▲3 (25ポイント改善)	▲13
非製造業	+11	+14 (3ポイント改善)	▲8

非製造業+11 → +14 卸小売が悪化

非製造業の業種別業況判断D-Iは、建設業が+19(前期比+8ポイント)、卸小売業が▲5(同▲8ポイント)、

サービス業が+28(同+8ポイント)となり、卸小売業が悪化しています。

◆非製造業の業種別業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	+11	+14 (3ポイント改善)	▲8
建設業	+11	+19 (8ポイント改善)	▲4
卸小売業	+3	▲5 (8ポイント悪化)	▲14
サービス業	+20	+28 (8ポイント改善)	▲6

◆売上高D-Iと収益判断D-I

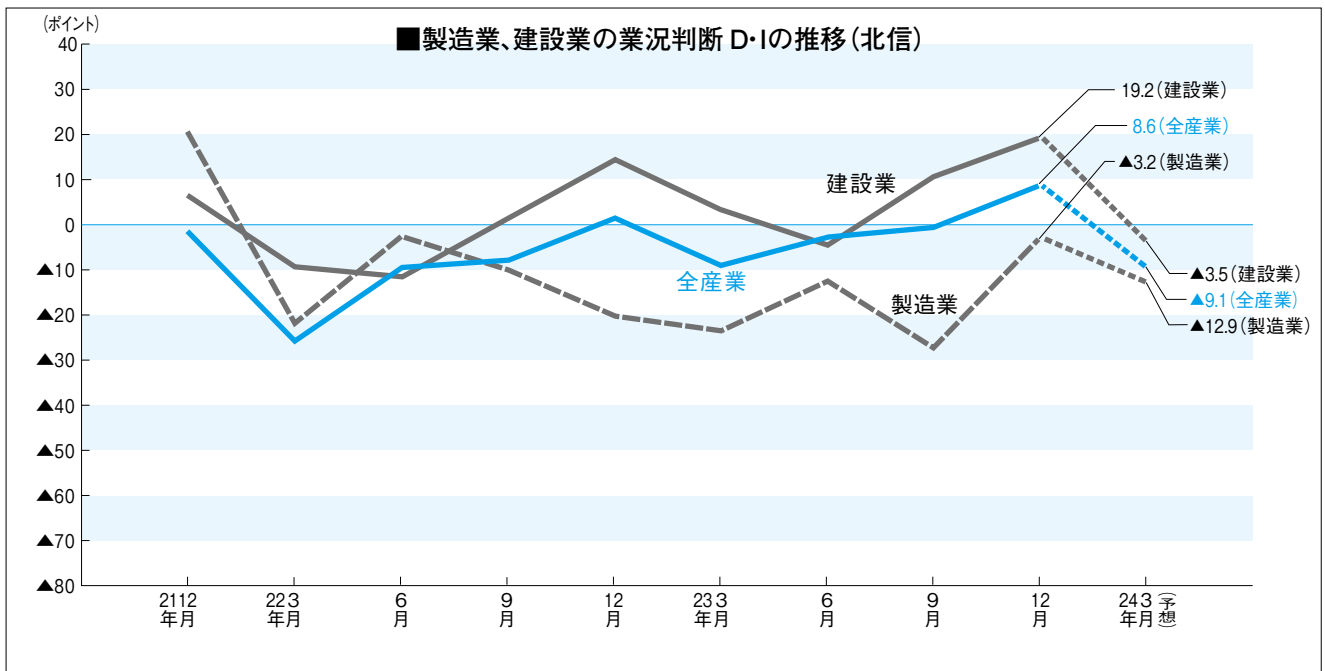
	売上高D-I(「増加」-「減少」)		収益判断D-I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	+6	+14(改善)	▲3	+5(改善)
製造業	▲12	+6(改善)	▲6	+2(改善)
非製造業	+14	+18(改善)	▲2	+6(改善)

●北信地区の業況判断D-Iの推移

	2023年3月	6月	9月	12月	2024年3月(予想)
全産業	▲9.0	▲2.9	▲0.9	+8.6	▲9.1
製造業	▲23.1	▲12.6	▲27.7	▲3.2	▲12.9
非製造業	▲2.8	+1.3	+10.9	+14.0	▲7.5

【調査要領】

- 調査実施……2023年12月
- 調査対象企業(回収)
 - 製造業……62社
 - 建設業……57社
 - 卸小売業……43社
 - サービス業……37社
- 回収率……81.6%
- 従業員規模
 - 30人未満……72.4%
- 分析…D-I判断指数を中心に分析
- 合計……199社



製造業の景況

25㊦改善して▲3に、来期は悪化の予想

製造業の10～12月期の業況判断D・Iは▲3で、前期(▲28)に比べ25㊦改善となりました。1～3月期は今期より10㊦悪化の▲13の予想です。

	(前期)	7～9月期	▲28
◆業況判断D・I	(今期)	10～12月期	▲3
	(来期)	1～3月期	▲13(予想)

◇業種別業況判断D・I

改善	食料品・金属加工・一般機械・精密機械
横ばい	電気機械

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…+2 (8㊦改善)

「増益」割合	前期 22% → 23% (1㊦増加)
「減益」割合	前期 28% → 21% (7㊦減少)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」	前期 36% → 42% (6㊦増加)
「収支トントン」	前期 53% → 48% (5㊦減少)
「赤字」	前期 11% → 10% (1㊦減少)

企業からのコメント

☆★円安基調で受注はようやく安定してきたが、仕入価格の上昇と中東紛争の影響が懸念される。

(精密機械)

☆★原材料価格は落ち着いてきたが、一部ではまだ値上がりが続いている。受注状況にはバラツキがあるが全体としては減少気味と感じる。(プラスチック製品)

☆★ゆっくりではあるが、コロナ前に近い状況となってきた。しかし4年間で生活環境が変わり、商品開発の方向性が見えない。(生麺業)

建設業の景況

8㊦改善して+19に、来期は悪化の予想

建設業の10～12月期の業況判断D・Iは+19で、前回(+11)に比べ8㊦改善しています。1～3月期は今期より23㊦悪化の▲4の予想です。

	(前期)	7～9月期	+11
◆業況判断D・I	(今期)	10～12月期	+19
	(来期)	1～3月期	▲4(予想)

◇業種別	総合建設	前期 +10 → +50 (40㊦改善)
	土木工事	前期 ±0 → ▲23 (23㊦悪化)
	建築	前期 +9 → +11 (2㊦改善)
	各種設備	前期 +25 → +38 (13㊦改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…+4 (15㊦改善)

「増益」割合	前期 15% → 18% (3㊦増加)
「減益」割合	前期 26% → 14% (12㊦減少)

◆現在の採算状況…悪化

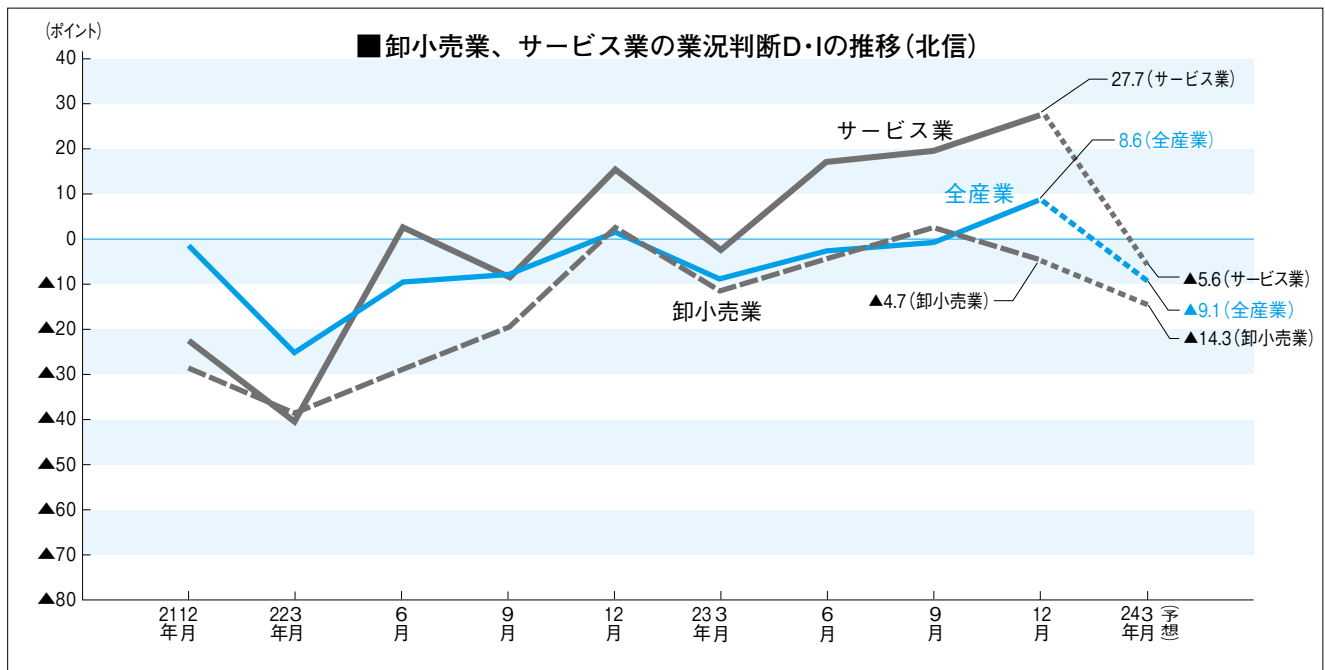
「利益確保」	前期 55% → 57% (2㊦増加)
「収支トントン」	前期 43% → 37% (6㊦減少)
「赤字」	前期 2% → 5% (3㊦増加)

企業からのコメント

☆★資材価格高騰に対しての価格転嫁、人手不足に対して工程管理の厳格化を元請へ交渉・提言する方向で営業活動を実施していく。(内装仕上)

★円安・物価の値上げによる建築価格の引き上げが顕著で困惑している。(総合建設)

★助成金が終わってきて、資材・流通・人材費等の価格上昇もあり来年度の先行きが見えない。(建築業)



卸小売業の景況

8割悪化の▲5、来期も悪化の予想

卸小売業の10～12月期の業況判断D・Iは▲5で、前回(+3)に比べ8割悪化しました。1～3月期の業況判断D・Iは10割悪化の▲14の予想です。

◆業況判断D・I	(前期) 7～9月期	+3
	(今期) 10～12月期	▲5
	(来期) 1～3月期	▲14(予想)

◇業種別	卸売業	前期 ▲6 → ▲5 (1割改善)
	小売業	前期 +9 → ▲4 (13割悪化)

◆収益判断D・I (「増益」-「減益」)...	▲9 (9割悪化)
「増益」割合	前期 25% → 16% (9割減少)
「減益」割合	前期 25% → 26% (1割増加)

◆現在の採算状況...悪化	
「利益確保」	前期28% → 35% (7割増加)
「収支トントン」	前期58% → 44% (14割減少)
「赤字」	前期15% → 21% (6割増加)

企業からのコメント

- ☆★急な冷え込みにより冬物の購入が増加した。しかし、安価な製品が中心で、高級なニット製品は売れない。(衣料品小売)
- ☆★各種イベントや冠婚葬祭は復活してきたが、花卉や鉢物の売上は回復しない。むしろコロナが明けてからのほうが状況が悪い。(花鉢卸)
- ★贈答用リングに関して、かつて類を見ない規模の商品不足が発生し、大きな打撃であった。(青果卸)
- ☆★人員不足が顕著であり、外国人労働者のパート採用も増加している。(スーパー)

サービス業の景況

8割改善の+28、来期は悪化の予想

サービス業全体の10～12月期の業況判断D・Iは+28で、前回(+20)と比べ8割改善しました。業種別では、外食・観光が改善し、タクシーが横ばい、輸送・運輸・不動産が悪化しています。1～3月期の業況判断D・I(予想)は33割悪化の▲6です。

◆業況判断D・I	(前期) 7～9月期	+20
	(今期) 10～12月期	+28
	(来期) 1～3月期	▲6(予想)

◇業種別業況判断D・I	
サービス	前期 ± 0 → +60 (60割改善)
輸送	前期 ± 0 → ▲11 (11割悪化)
タクシー	前期 +100 → +100 (横ばい)
運輸	前期 ▲29 → ▲43 (14割悪化)
外食	前期 +67 → +83 (16割改善)
観光	前期 ▲17 → +11 (28割改善)
不動産	前期 +30 → +29 (1割悪化)

企業からのコメント

- ☆忘年会シーズンに入り、久々に12月は活気づいている。個人客は少なくなったが、団体客の間合せが非常に多くなっている。(旅館)
- ☆★観光客やイベントにおける人流が多くなり、忙しい状況が続いている。ドライバーはかなり不足しており深刻な課題となっている。(タクシー)
- ★繁忙期の青果物関係が天候等の被害で不作、売上は大ダメージを負う。一般商流も減少傾向。年末感はあるが、繁忙期と呼べるものではなかった。(運送業)

業況判断D・I

2023年の業況(見込み) +9 [良い]34% [悪い]25%

2024年の業況見通し +5 [良くなる]23% [悪くなる]18%

アンケート
2024年の経営見通し ①
2023年12月調査

2023年の業況(見込み) [良い]34%、[悪い]25%の業況判断D・Iは+9となり、2022年(+9)に比べて横ばいとなりました。

2024年の業況見通し [良くなる]23%、[悪くなる]18%の+5となり、2023年(▲9)に比べて14ポイント改善の予想となりました。

悪い」を合算した[悪い]と答えた企業(25%)を引いた業況判断D・Iは+9となり、2022年(+9%)に比べ横ばいとなりました。

従業員規模で見ると、30人未満の+6に対し

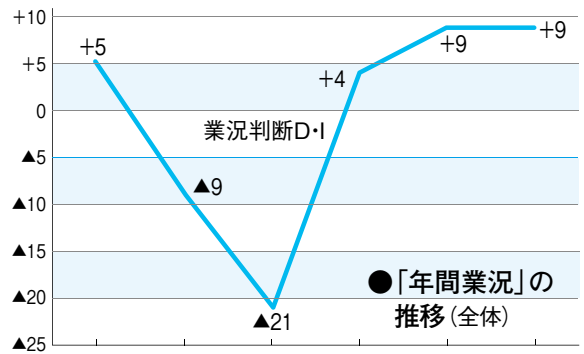
2023年の業況

30人未満 +6 [良い]31% [悪い]25%

30人以上 +16 [良い]42% [悪い]26%

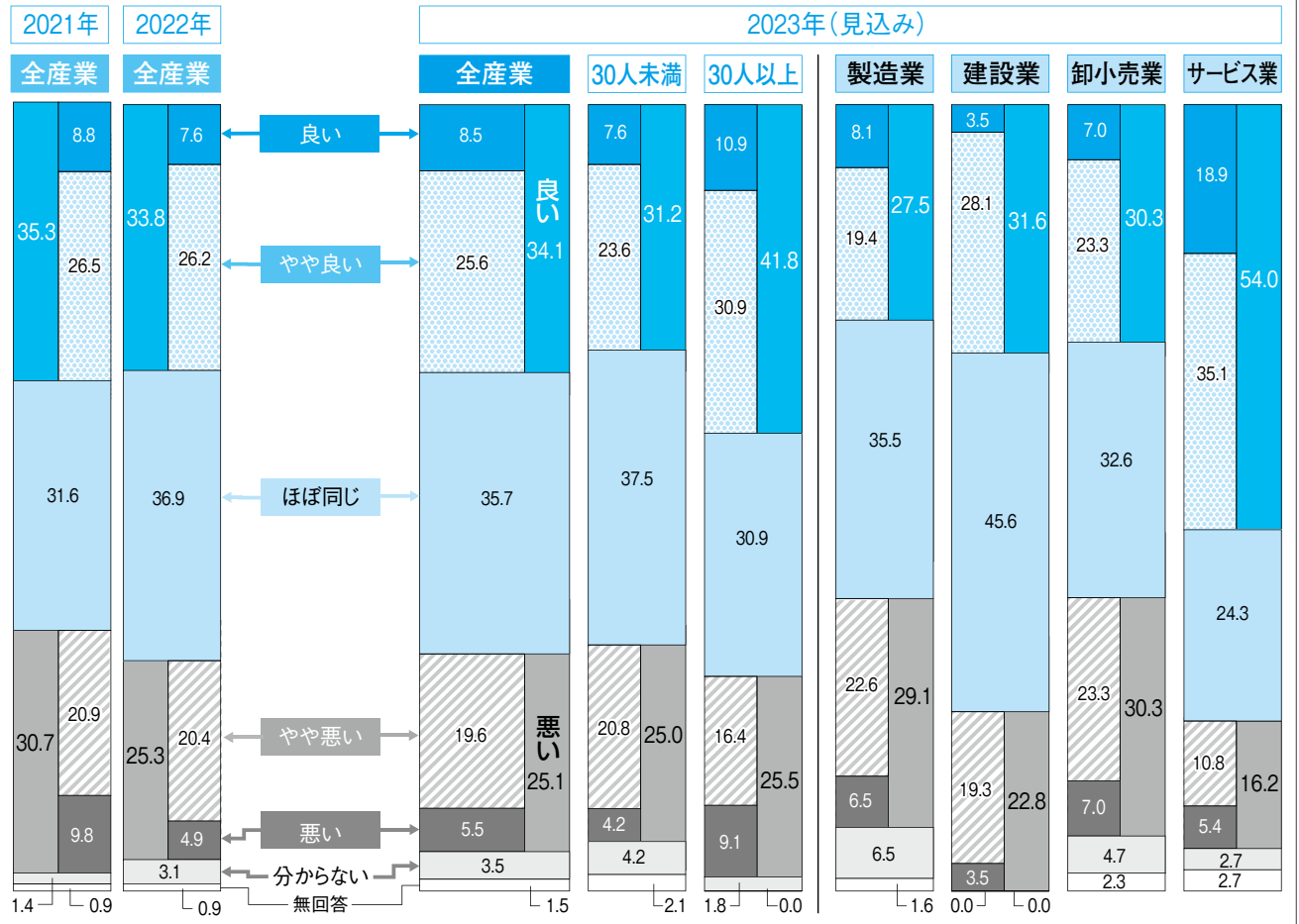
「2023年の業況(見込み)は、2022年に比べてどうか」を聞きました。

全産業では、「良い」と「やや良い」を合算した[良い]と答えた企業(34%)から、「悪い」と「やや



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
良かった	30%	25%	20%	35%	34%	34%
悪かった	25%	34%	41%	31%	25%	25%

●2023年の業況(見込み)は、2022年に比べてどうか(%) ~全産業は2022年(+9)と同様の+9に~



て、30人以上は+16となり、30人以上が10割上回りました。

業種別

サービス業+38、建設業+9
卸小売業±0、製造業▲1

◇4業種(2022年比)

製造業 業況判断D・Iは、2022年実績(▲1)に比べ横ばいの▲1となりました。30人未満は▲8、30人以上は+9です。

建設業 業況判断D・Iは、2022年実績(+3)に比べ6割改善の+9となりました。30人未満は+10、30人以上は±0です。

卸小売業 業況判断D・Iは、2022年実績(▲9)に比べ9割改善の±0となりました。30人未満は▲11、30人以上は+50です。

サービス業 業況判断D・Iは、2022年実績(+47)に比べ9割悪化の+38となりました。30人未満+48、30人以上は+21となり、他業種に比べ最も高くなっています。

2024年の業況見通し

30人未満 + 1 [良い]20% [悪い]19%
30人以上 +18 [良い]33% [悪い]15%

「2024年の業況見通しは、2023年に比べてどうか」を聞きました。

全産業では、「良くなる」と「やや良くなる」を合算した「良くなる」と答えた企業(23%)から、「悪くなる」と「やや悪くなる」を合算した「悪くなる」と答えた企業(18%)を引いた業況判断D・Iは+5となり、2023年実績(▲9)に比べ14割改善しました。

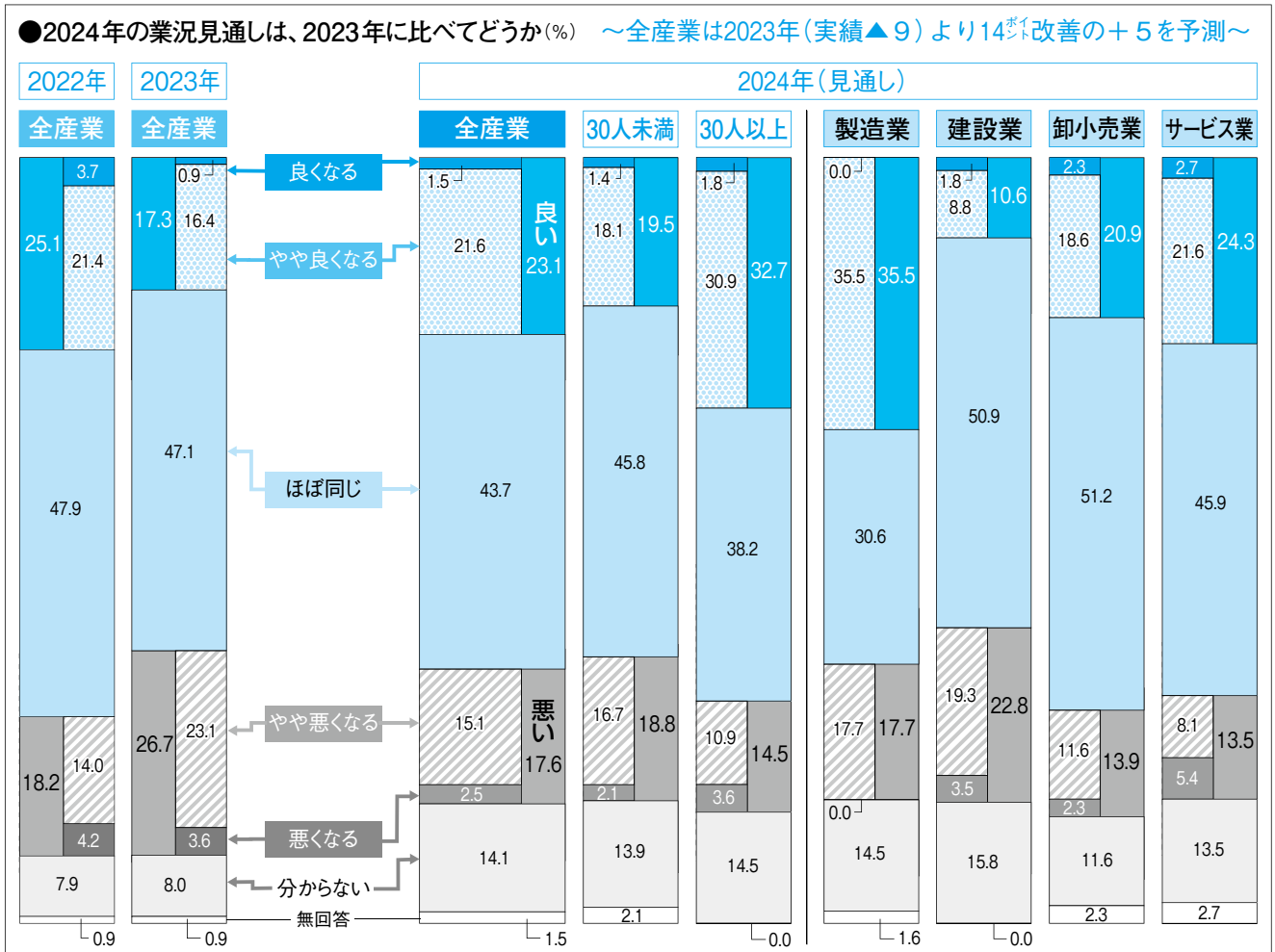
従業員規模で見ると、30人未満の+1に対して、30人以上は+18となり、30人以上が17割上回っています。

業種別

全産業で改善傾向

◇4業種(2023年比)

製造業 業況判断D・Iは、2023年実績(▲15)に



比べ33%改善の+18で、他業種に比べ最も高くなりました。30人未満は+14、30人以上は+25です。

建設業 業況判断D・Iは、2023年実績(▲17)に比べ5%改善の▲12となりました。30人未満は▲17、30人以上は+11です。

卸小売業 業況判断D・Iは、2023年実績(▲7)に比べ14%改善の+7となりました。30人未満は▲3、30人以上は+50です。

サービス業 業況判断D・Iは、2023年実績(+

9)に比べ2%改善の+10となりました。30人未満は+22、30人以上は▲8です。

[調査要領]

実施期日：2023年12月上旬～中旬

実施方法：第194回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収199社(製造業62社、建設業57社、

卸小売業43社、サービス業37社)

うち従業員30人未満144社(72.4%)

「2024年の展望と業界見通し」に関する企業からのコメント

製造業

◇2023年は、メーカーによってバラツキがあるものの車載部品関連は総じて順調。空調関連は、中国景気減速の影響を受けて後半に失速した。2024年も中国景気に左右されると予想している。

(金属製品製造)

◇経営課題の事業継承の問題は、既にトップの継承が完了した。今後は、各部門の後継者の育成が課題だと思っている。

(精密機械)

◇世界情勢が混乱している中で、今後の見通しは不透明さを増している感じがする。何か良い兆しが見えなければ、今年も低迷する可能性が高い。

(精密板金部品製造)

◇仕入価格の値上げに対する商品の価格転嫁はほぼ終了してきた。今後は、変化した状況に対応して投資のしどころを見極め、経営を安定させる必要があると思う。

(そば製造)

◇高止まりしている電気料に、国の対策が必要だと考えている。

(繊維製品製造)

◇海外(米国・中国)の経済状況が不透明のため受注が安定せず先延ばしの状況である。年明けは事業の販路や市場の拡大を図り、製品の高付加価値化を強化していく。

(輸送機械製造)

◇コロナ禍前の生活に戻ることを期待している。2023年は、まだまだお客様の戻りが足りない感覚だったので、2024年こそはと思っている。

(食料品)

◇業況が上向き要素があまり見当たらないので、昨年水準を保てれば良いと思う。何か明るい話が出てくれば良いが…。

(金属製品加工)

建設業

◇既存を維持しつつ、新しい内容を推進して売上の維持をしていきたい。

(建設業)

◇増収・増益基調で推移すると思いますが、価格転嫁や人手不足対策の如何により、増益幅の減少も考えられる。

(内装仕上)

◇公共工事の予算や企業の設備投資動向の影響が不透明である。

◇公共工事の入札への取り組みのほか、新しい部門への入札も行いたいですが、極力、競争は避けたい。

(以上総合建設業)

卸小売業

◇人口減少により市場は縮小傾向なので、新たな販路を開拓して、また海外も視野に入れた事業を展開していきたい。

(酒類販売)

◇業界の再編が進む中、適正な利益を確保し、地域貢献に努力したい。

(寝具卸)

◇新車登録件数は増加しており、当面は一定の需要はあるものと思われる。今後の電気自動車関連の動きに不安が残る。

(自動車小売)

◇子どもの業界は、天候に左右されるため、昨年のように春先に霜害があるとどうしようもない。

(青果卸)

◇資材の価格が少し落ち着いて欲しい。イベントの予算が少し落ち込んでいるので厳しい。

(花鉢卸)

サービス業

◇コロナ禍での借入の負担が大きくて、利益をどう生み出すかが今後の課題である。

(タクシー)

◇2024年問題(トラックドライバーの時間外労働の上限規制)などの影響が最大の懸念である。

◇2024年問題への対応など不透明な部分があり、業況見通しは不安な部分が多い。

◇運送業の時間を売るサービスが今後制限されることで、お客様から理解されなくては、生き残れないと感じる。

(以上輸送業)

◇インバウンドは増加してきているが、国内の客は少ない。現在は人手不足が深刻なため、年明け以降の人材確保が大きな課題となっている。

◇ポストコロナに向けた施策をしていることで、客足は戻ってきているが、老朽化に伴う設備投資は控えている状況にある。

(以上旅館)

2023年の暮らし向き ▲14 [良くなった]8% [悪くなった]22%

2024年の暮らし向き
生活者アンケート
2023年12月調査

2024年の暮らし向き(予測) ▲16 [良くなる]7% [悪くなる]23%

2023年の暮らし向き [良くなった] 8%、[悪くなった] 22%で、暮らし向き判断D・Iは▲14となり、前年(▲19)より改善しています。

2024年の暮らし向き [良くなる] 7%、[悪くなる] 23%で、暮らし向き判断D・Iは▲16となり、悪化を予測しています。

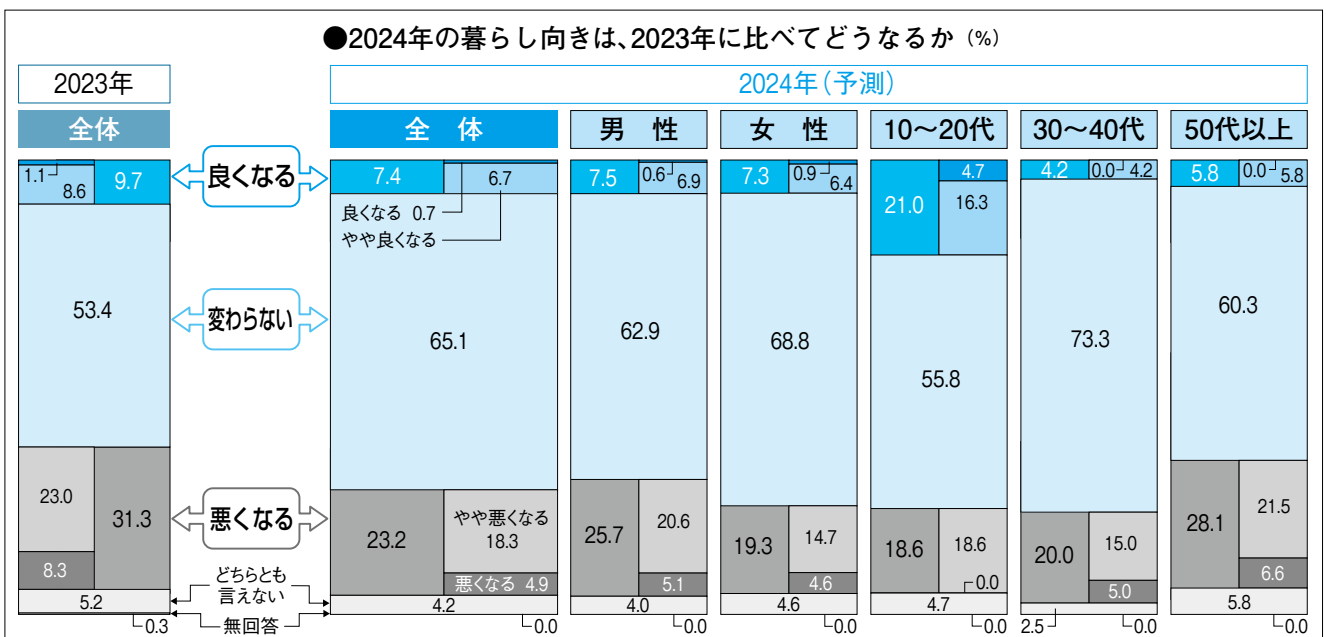
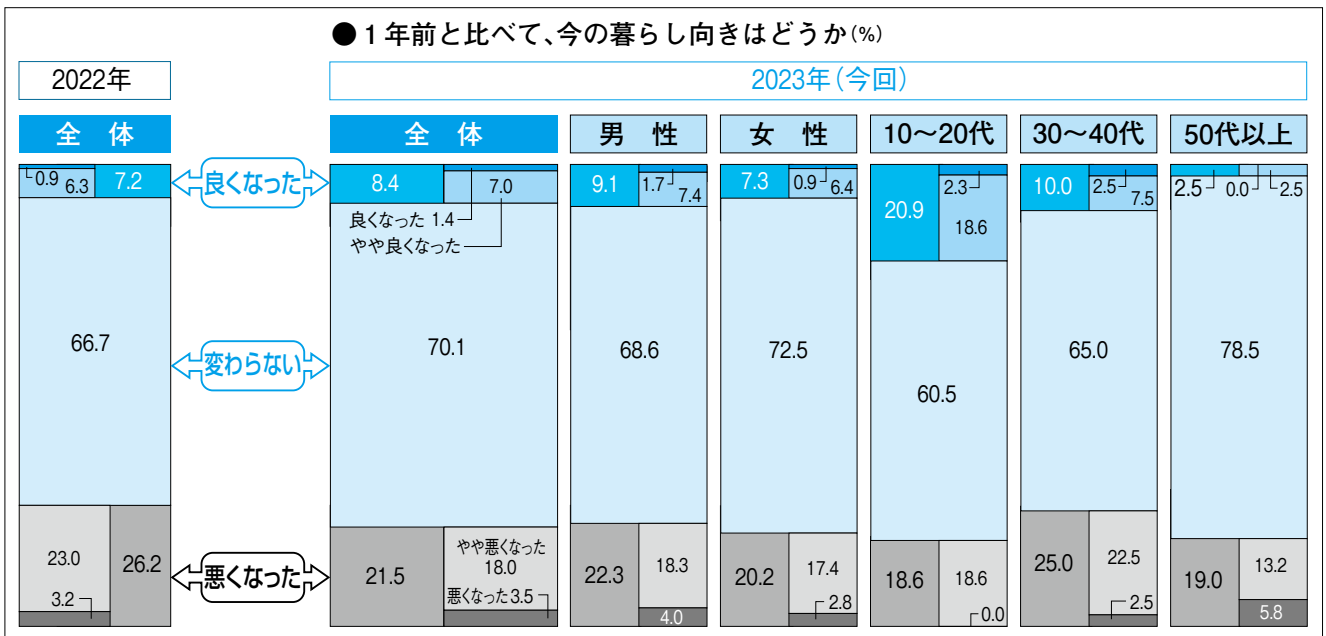
◇2023年 ▲14([良くなった] 8%・[悪くなった] 22%)

◇2024年(予測) ▲16([良くなる] 7%・[悪くなる] 23%)

2023年の暮らし向き
2022年に比べ改善

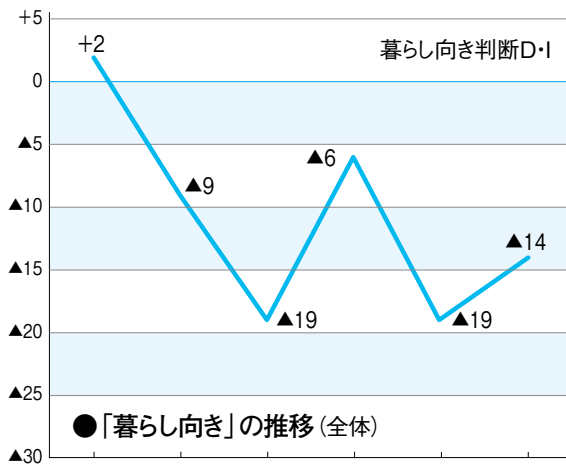
「2023年の暮らし向きは、2022年と比べてどうか」を聞きました。

「良くなった」と「やや良くなった」を合算した[良くなった]は8% (2022年調査：7%)、「悪くなった」と「やや悪くなった」を合算した[悪くなった]



は22% (同調査：26%)で、暮らし向き判断D・Iは▲14となり、2022年(▲19)に比べ5ポイント改善しました。

男女別では、[良くなった]は男性9%、女性7%、[悪くなった]は男性22%、女性20%となり、暮らし向き判断D・Iは男性、女性ともに▲13の同率となりました。世代別では、10～20代が+2、30～40代が▲15、50代以上が▲16となり、その差は18ポイント広がっています。



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
良くなった	12%	8%	6%	9%	7%	8%
悪くなった	10%	17%	25%	15%	26%	22%

2024年の暮らし向き(予測)

2023年(実績)に比べ6ポイント改善

「2024年の暮らし向きはどうか」を聞きました。

「良くなる」と「やや良くなる」を合算した[良くなる]は7% (2023年実績10%)、「悪くなる」と「やや悪くなる」を合算した[悪くなる]は23% (同調査:31%)で、暮らし向き判断D・Iは▲16となり、2023年実績(▲22)に比べ6ポイント改善(予測)となりました。

男女別では、[良くなる]は男性8%、女性7%、[悪くなる]は男性26%、女性19%となり、暮らし向き判断D・Iは男性▲18、女性▲12となり、6ポイントの差がありました。世代別では、10～20代が+2、30～40代が▲16、50代以上が▲22となり、その差は24ポイントとなっています。

[調査要領]

実施期日：2023年12月上旬～中旬

実施場所：長野信用金庫本支店窓口

対象者：来店客284人(男性175人・女性109人)

調査方法：アンケート用紙に記述(無記名)

「暮らし向き」に関する生活者からのコメント

- ◇収入に対して物価の上昇幅が大きいので、この先、現状の生活をしていけるか不安です。(20代男性)
- ◇将来に希望が持てるように、若者の税負担軽減に留意してほしい。
- ◇給料が上がらず物価高が続くので、生活はますます厳しくなる一方だ。(以上20代女性)
- ◇光熱費に加え燃料代までも膨れ上がっているの、子どもの多い世帯などはやりきれない。また、税金の無駄遣いが目立つ。
- ◇景気は良くならないが、良くなる兆しや材料等も全く感じず、継続的な不況にもがいている状況。
- ◇少子化対策として「ブライダル支援」を行っても効果は薄い。結婚に至るまでの過程は人それぞれ違うと思う。(以上30代男性)
- ◇商品価格が上がり、さらに商品の容量が少なくなっていて、家計の負担は増すばかりです。(30代女性)
- ◇第三次産業の商業などは物価も上昇し、売上も上がっているが、第二次産業の下請けでは、売上が世の中の物価上昇についていけない。(40代男性)
- ◇委託業者が儲かるだけの各種バラマキ策をするより、減税による可処分所得の引き上げの方が効果が大きいのと思う。

- ◇物を大切にするとか節約するようになり、良い傾向だと思う。お金のことに関しても今まで以上に考えるようになった。(以上40代女性)
- ◇今後のエネルギー価格の動向に不安を感じている。また、国の政策として各種助成や補助金をどんどん支出しているが、将来的な財政面での不安を感じている。
- ◇食費や光熱費が物価高により上昇しているが、賃金を上げられない現状について当社の従業員に対して申し訳ない。(以上50代男性)
- ◇物価高が止まらず、スーパー等での買い物の際もモノの購入に慎重になる。
- ◇悪いことばかりではなく、現在から未来も含め自分の状況を見直す良い機会になっている。政治をあてにせず自分で考える。(以上50代女性)
- ◇分相応の生活を心がけることが大切だと思う。
- ◇現在までのところ、大きな問題は生じていないが、将来の健康面や社会との向き合い方に不安が残る。(以上60代以上男性)
- ◇そろそろ年金生活に移行するにあたり、現在の収支を見直し老後の生活に備えなければと考えている。(60代以上女性)

北信濃 明治時代の風景

(22) 善光寺西方

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



これは明治14年(1881)に出版された「善光寺長野町図」の善光寺の西方の部分です。右上が北です。

往生寺

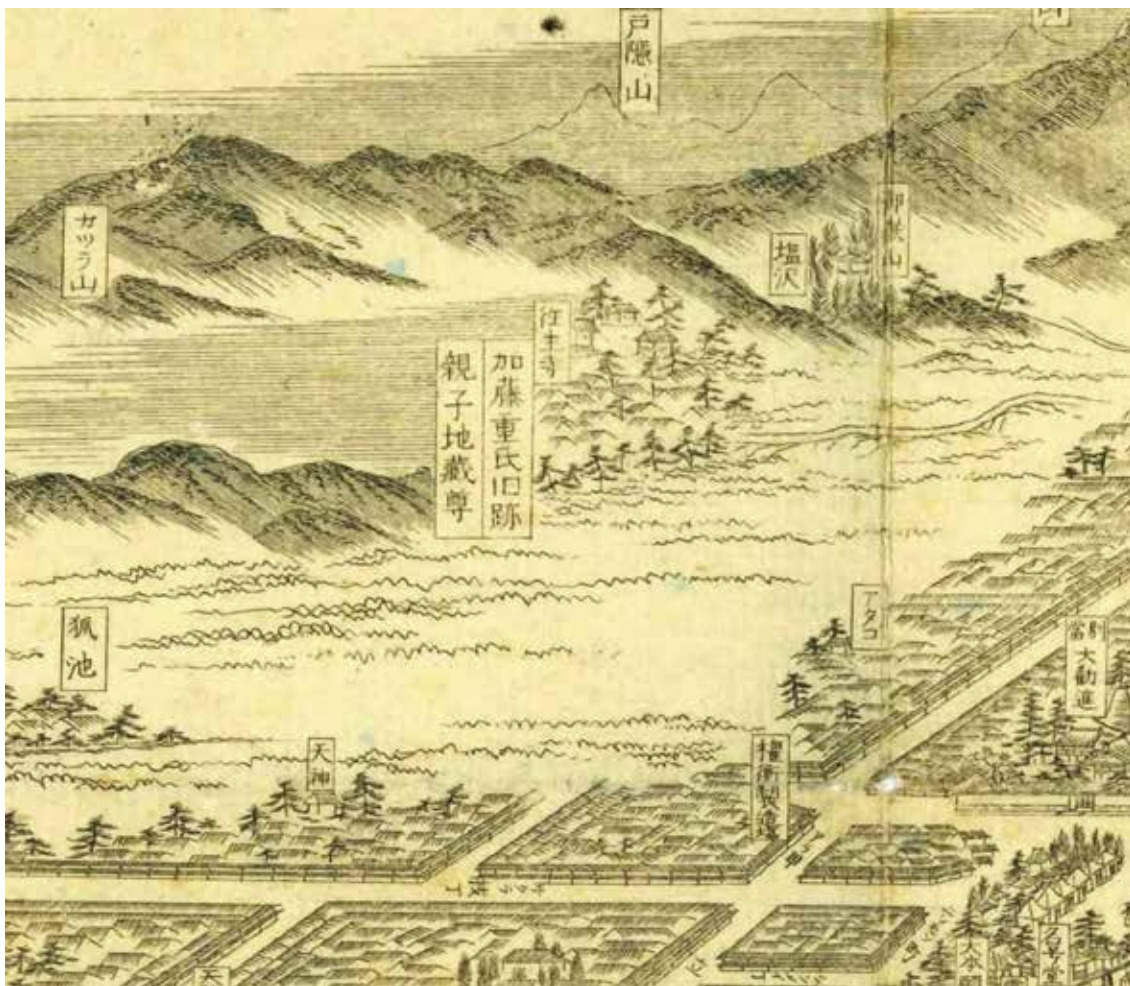
中央に「往生寺」があり、東方の善光寺方面から1本の道が延びています。「加藤重氏旧跡」と「親子地蔵尊」が大きな字で記されているのは、ここが特別な名所であることを意味しています。往生寺は善光寺参りの旅人が足を延ばす、善光寺の奥の院的な寺でした。この「善光寺長野町図」は、善光寺参りの旅人向けに発行された案内図なのです。

「往生寺」の下に集落が描かれていますが、ここが「往生寺」のある往生地です。共に「おうじょうじ」ですが、寺号と地名で「寺」と「地」を使い分けています。「往生寺」の参道には土産物店が軒を連ねていました。往生地でリンゴの栽培が盛んにな

ったのは、そうした店で土産物として売るためでした。

塩沢鉾泉

善光寺方面からもう1本の道が、「戸隠山」方面に延びています。これが善光寺と戸隠を結ぶ戸隠街道で、その道に沿った「塩沢」には鉾泉宿がありました。小林一茶の日記によれば、一茶は文化13年(1816)3月に花見で往生寺を訪れ、「湯も浴て仏おがんで桜かな」と詠んでいます。これは塩沢鉾泉で入浴し、往生寺で花見をしたことを詠んだのでしょう。また一茶は文政元年(1818)に「汐沢湯」で大酒した記録がありますが、これも塩沢鉾泉でしょう。戦前には3軒が営業していましたが、明治44年(1911)8月と昭和12年(1937)7月の湯福川の氾濫では、大被害を受けました。



「善光寺長野町図」の善光寺西方

御嶽神社

「塩沢」にある「御嶽山」は、御嶽神社です。ここも戸隠街道に面しています。木曾の御嶽山の信仰が盛んになったのは江戸後期で、各地に御嶽神社が造られました。この御嶽神社は文政年間に御嶽行者によってまつられたと伝えられています。初めは天神宮町(長門町)の龍樹院が預かっていましたが、その後は講の人々によって守られてきました。



江戸時代は桜小路と呼ばれた桜枝町通り

葛山

この絵には「往生寺」の背後に小さな山々が連なっていて、その最も奥の高い所が「カツラ山」(葛山)となっています。東側は往生寺山、南側は郷路山などと呼ばれますが、これらは下から見上げると山のように見えるだけで、実際には葛山(標高812m)から延びている尾根です。

戦国時代は、葛山衆と呼ばれる地元の上杉方の武士たちが葛山にこもっていましたが、弘治3年(1557)の第3次川中島合戦で武田方に攻め落とされました。水が乏しいことを隠すために米で馬を洗ったという、米山城伝説が残っています。

狐池

「カツラ山」の下に、「狐池」の集落が描かれています。「狐池」は地名ですが、その地名の起こりとなった池の名でもあります。その池は狐池集落の諏訪神社の境内にあって、善光寺七池の1つに数えられています。上の池と下の池があって、上の池は昭和40年(1965)ころまで飲料水として利用されていました。狐池集落には天保3年(1832)に開かれたという鉱泉があって、明治時代には2軒が営業していました。

桜枝町

下段の東西に延びる通りに「サクラ枝丁」(桜枝町)と書いてあります。ここは善光寺七小路の1つで、桜小路と呼ばれてきました。桜小路はその

まま町名でもあって、善光寺町の八町の1つでした。ここは裾花川の谷口集落で、鬼無里・戸隠方面で生産された麻や紙を扱う商人が軒を連ねていました。その歴史は古く、応永7年(1400)の大塔合戦を記録した『大塔物語』には桜小路の2人の遊女のことが記されています。明治7年(1874)に、町名を桜小路から桜枝町に改めました。桜小路の産土神は天神社で、この絵にも「天神」として描かれています。

荒町

桜小路から横沢町の通りを北へ入った辺りは、「アラ早」(荒町・安良町)と呼ばれていました。ここには大勧進の寺侍の屋敷があり、明治時代には西洋館という西洋料理店になりました。この町に「権衡製造場」が描かれていますが、ここは秤はかりや物差しの製造場で、現在も松沢商店として営業しています。

横沢町

大勧進に直属する町で、大勧進の関係者や職人の多い町でした。産土神は八幡社で、境内の青麻神社は中風の神として信仰を集めています。絵にある「アタゴ」(愛宕)も八幡社に合祀されています。

2月号は「権堂周辺」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆北信地区の景気

景気判断D・I ▲32 「良くなった」5% 「悪くなった」37%

「北信地区の景気は良いと感じているか」を聞きました。

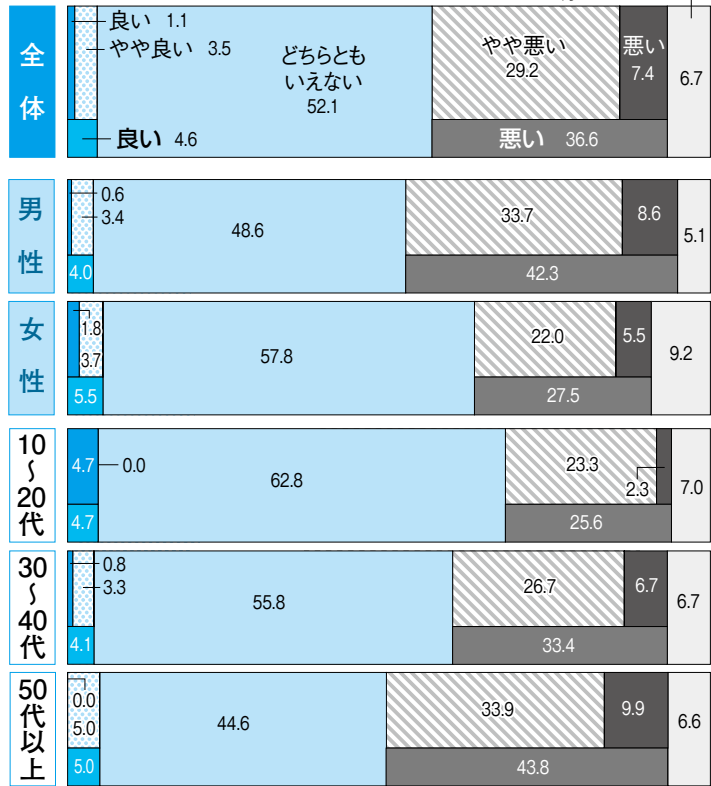
「良い」(1%)と「やや良い」(4%)を合算した[良い](5%)から「やや悪い」(29%)と「悪い」(7%)を合算した[悪い](37%)を引くと、景気判断D・Iは▲32%となりました。

男女別の景気判断D・I見ると、男性▲38%、女性が▲22%で、男性が16ポイント高くなりました。

年代別の景気判断D・I見ると、10~20代が▲21%、30~40代が▲29%、50代以上が▲39%と18ポイント差となりました。

〈当金庫・2023年12月調査〉

●北信地区の「景気は良い」と感じるか(%)



●みなさまの税務相談のご案内 [2月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
2月 2日 金	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	2月 19日 月	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)
6日 火	本店営業部 (権堂支店・善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)	21日 水	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)
8日 木	長池支店 (大豆島支店)		22日 木	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
9日 金	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)	26日 月	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
14日 水	太子町支店 (須坂支店・墨坂支店)	豊野支店	27日 火	本 部	
16日 金	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)	29日 木	本 部	

